

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会  
〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## 展示館の現状について —— 若干の質問にこたえる ——

問 この展示館は建てたからどのくらいになりますか。

答 一九七六年(昭五)六月十日にオープンしましたから、二年半ちかくなっています。

問 この建物は都が建てたものですか。

答 そうです。都立です。

問 では、お役所が管理・運営に当たっているのですか。

答 いえ、都からの業務委託という事で、財団法人・第五福竜丸平和協会(会長三宅泰雄理学博士)が責任をもってこれに当たっています。

問 現在までの展示館利用者はどのくらいになりますか。

答 本年十月末までで約九万二千名です。これは一ヶ月平均三千二百名で、一日平均一二六名です。

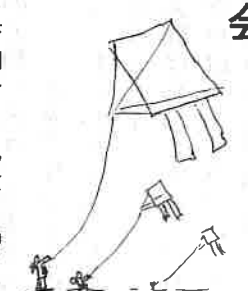
問 開館早々からそんな数字でしたか。

答 いえ。十月半ごろまでは都バスも通わず、本当の離れ

## 79 新春凧あげ大会

一月十四日(日) 午前十一時  
夢の島公園多目的コロシアム  
参加費・無料  
凧のコンクール(参加自由)

優秀なものに賞状・賞品・全参加者に記念品贈呈  
主催 (財) 第五福竜丸平和協会  
後援 東京都・江東区役所



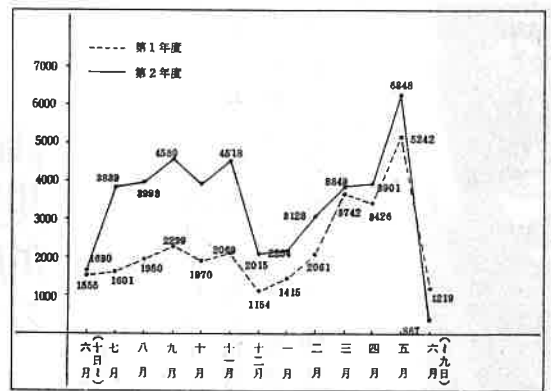
問 せる方法は何でしょうか。

答 やはり、一般市民がこの展示館の存在を認識して、進んで見学する、とくに団体の見学がふえることが望ましいと思います。

問 それとともに、展示館の内容をもっと充実させることも大切で、いろいろ苦心している次第です。

問 ともあれ、こんな展示館は世界に類をみないユニークなものなので、大切にしてください。

答 ありがとうございます。みなさまのご協力のもとに、いっそう努力いたします。



## 「知る集い」で土井記者の 貴重な土産話が披露された

12回目を迎えた「ビキニ事件と福竜丸を知る集い」は、去る10月18日夜、神田・教育会館で朝日新聞記者土井全二郎氏を迎えて開かれました。

土井記者は、ことし夏のビキニ島在住の島民が近くのキーリ島に強制的に再疎開されたときに現地取材されて帰ったがその大要は朝日新聞(夕刊)に連載されました。

当日は、その新聞報道を資料として配付し、そこに書かれなかったこと、書けなかったこととの共通の感想でした。

△ことしの気候は何か狂った感じ、一体これで寒くなるのだろうかと戸惑っていたら、酉の市(十一月七日)が近づくとつれて、寒さも本格的になり、夢の島にも木枯しが吹きわたりました。

▽展示館のなかには来観者が自由に感じたことを書きのこせる感想録がおかれています。最初はデタラメな落着きや、恥かし絵を書く不心得者が跡を絶ちませんでした。近頃は下らないものはほとんど無くなりまし

## 編集後記

△この福竜丸だよりは、毎号その感想録から抜き出して転載していますが、われわれの指針となるような立派なものがあり感激しています。恐らく来年六月に発行される「展示館・管理レポート」第三集には、その多くが再録されることでしょう。

▽この福竜丸だよりも八号を迎え、いよいよ皆さまに親しまれる存在となりましたが、生き生きとした紙面を作るかどうかは読者のみなさんのご協力にまつほかはありません。十二月号は特集号となりますので、格別のご支援をお願いします。(H)

## 多彩だった「国連軍縮週間」 各団体、講演会や写真展を

十月二十四日から始まった国連軍縮週間には、中央・地方を問わず記念の行事が、多彩な形で行われました。

中央では、地婦連・日青協など市民五団体を中心とするNGO懇談会が十月二十四日に記念集会を市ヶ谷・私学会館でひらいたのはじめ、日本原水協が日本教育会館及び私学会館で、「国連軍縮週間記念連統市民講座」を二十五日から三十日まで

テーマ別にひらき、原水禁国民会議では、二十七日、東京・お茶の水の全電通会館で、「核兵器の廃絶と核利用の禁止」のテーマで講演会をひらきました。

広島では、幅広い市民団体や原水禁三団体など六十団体による「78国連軍縮週同行動広島実行委員会」の結成と平和行進を二十七日に行いました。

長崎では「原爆問題研究普及協議会」が、二十二日にシンポジウムを開き、静岡でも県原水禁運動統一促進準備会が「ノーモア・ヒバクシャ対話集会」をひらきました。

そのほか、東京・目黒区や神奈川県川崎市、藤沢市などでも写真展が行われるなど多彩な行動が報告されています。

# 画期的な「原爆記録展」

## 大きな成果を残して閉幕

去る十月二十四日から三十日まで、東京都主催、広島・長崎両市の協力で、はじめて「原爆記録展」が都庁第三庁舎で開催されました。

これは、昨年来、国連へ核兵器完全禁止を要請する新しい国民的な原水禁運動の成果として生まれました。

本年春の国連軍縮特別総会に日本から五百名を超える国民代表が派遣され、これが国連総会を動かし、十月二十四日からの国連軍縮ウィークを設けさせるに至りました。そして、その国連における成果をふまえ、中野好夫氏を中心とする革新十氏の陳情と、これを支持する都民の声に応え、東京都が開催にふみ切ったのです。



そしてこの企画は、軍縮ウィーク中世界各国で行なわれる軍縮を目指すさまざまな行動、また、国内での同様な努力と歩調を合わせて行なわれただけでなく、革新都政の生み出したものとして高く評価すべきです。

平和協会の協力によるビキニ事件と福竜丸関係の写真が、展示されました。

「原爆記録展」開催期間中、同会場には、予想を上まわる二万一千四百八十二名が入場、大きな反響を呼びました。

また、会場には、「感想ノート」が置かれ、大人、子供を問わず、幅広い見学者の感想が残されていました。その中のいくつかを拾ってみると、

「原爆のこのような生々しいものを見るのは初めてでした。戦争を再び繰り返さないために小さな日常から働きかけていかなければ、と思います。」

「戦争で死んだ人は、きっと今の平和な世の中を知ったらびっくりするだろうな。私はこのような人々のため、時間を大切に生きようと思う。」

「生き残った私たち被爆者もなくなった人びとの死が何であ

ったかを問いつつ、核兵器のなくなるまで訴えつづけてゆきたいと思います(男・被爆者)

「この悲惨な記録を大々的に、世界の人類に向けて公表すべきです。……世界平和が永久に続くよう、われわれは努力しなくてはなりません」

「人間は忘れやすい。けれどこれだけは一生忘れてはならないし、見つめる勇気を持たなければならぬと思う」などなど。また、「核兵器は追放されなければなりません。被災を知らない人にもその状況を知らせなければなりません」と言う外国人の感想も寄せられました。

さらに期間中、第二庁舎ホールで毎日三回上映された「ヒロシマ—原爆の記録」(ナガサキ—原爆の記録)も毎回満員で、通算六千三百二十名が入場しました。

こうした盛況にこたえ、この「原爆記録展」は、革新十氏の手によって、武蔵野市の吉祥寺で十一月十三・十四の両日開催されるなど、今後大きな影響を与えるものとなりました。

### 科学のあり方に感銘

評書

三宅泰雄先生著  
科学論集第一巻

### 「科学について」



法政大学教授 田沼 肇

三宅泰雄氏は、専攻の地球化学、海洋学などの分野だけでなく、原水爆禁止運動をはじめ科学者の社会的活動の領域でも先頭にたって、指導的な役割を果たしている。そのような三宅氏の『科学について』が刊行されたことを、心から喜びたい。

著者は、本書の表題の「科学について」は「むしろ、人間にかのことにばおきかえて読んで頂きたい」と述べている。このように確信している科学者の著作だからこそ、学問のうえで専門外の多くの人びとの心をも、ゆり動かす迫力をもっているのだと思う。具体的な事実にもとづく問題提起のしかた、すぐれた教養と博識に支えられた文章もすばらしい。

(水曜社・四六版 二八〇〇円)  
赤旗掲載の書評からの引用

### 丸木美術館を訪ねて

専務理事 広田 重道

秋晴れに誘われて、埼玉県東松山市下唐子の丸木美術館を訪

れました。丸木俊子先生は南方旅行で留守でしたが、位里先生

### 来館者の声から



広島や長崎にある展示館を見て原爆の恐ろしさを知っているが、この第五福竜丸が被爆した時の水爆が、広島に投下された原爆よりはるかに大きいことがわかり、驚いています。

もっとも核兵器の恐ろしさを皆が知ることができるよう協会の方々の努力を期待します。  
木下 陽 25才 男

数年前、夢の島に来た時に、この船はゴミの中でした。まわりに無数のカモメが飛んでいたのが印象的でした。でも……こんなに立派に保存され、うれしく思いました。後世に残るよう、今後がんばって下さい。  
途中でカンピールをのんだので乱筆です。  
ポルノも良いし、暴走族も可とする私ですが、今後絶対に戦争だけは、核兵器だけはやめたいと努力したく思います。  
日本に平和を……  
30年前の戦災孤児より

にはお目にかかれて十数年ぶりの再会に話はずみしました。原爆観音堂を作り、美術館も建てようと丸木さんの豊島区のアトリエで相談したことも昨日のことのように思い出されますが、その時のメンバーの高津正道、半田孝海さんなどはすでに亡く歳月の流れを感じます。

しかし、丸木美術館は埼玉県に建てられて十年以上となり第